

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン

〒130-0004 東京都墨田区本所 3-15-5

ソーシャルインキュベーションオフィス SUMIDA201

Email: info-japan@wateraid.org

Tel:03-3829-0678 / Fax:03-5608-1567

<http://www.wateraid.org/jp>



年次報告書



820万人

820万人に対して、石けんで手を洗う、
月経中に衛生的な状態を保つといった
衛生習慣を促進する活動を行いました。

すべての人々が安全な水と
衛生を利用できる世界——
それがWaterAidのビジョンです。

200万人

200万人が安全な水を利用可能
になりました。

310万人

310万人が衛生施設を利用可能
になりました。

WaterAid

WaterAid/Nyani Quarmyne/Panos

MISSION



ウォーターエイドのミッションは、世界で最も貧しく社会的に取り残されている人々に安全な水と衛生環境を届けることによって、人々の暮らしを変えていくことです。ウォーターエイドは、活動の効果を最大限に高めるために、パートナーと協力し、意思決定機関への働きかけも行っています。

CRISIS



安全な水や衛生設備のない人々は、貧困と病気の悪循環から抜け出しができません。開発途上国では毎日、何百人の女性たちが安全ではない水をくみに行くために貴重な時間を費やし、多くの地域では汚水がそのまま村の中を流れています。また、子供たちは予防可能な下痢によって命を落としています。

HISTORY



1981年 イギリスの水道局によって設立される
1991年 英国チャールズ皇太子が会長に就任
1995年 ストックホルムウォータープライズ受賞
2003年 イギリスにおいてチャリティー・オブ・ザイヤー受賞
2004年 アメリカ、オーストラリアにウォーターエイドを設立
2006年 「イギリスの最も称賛する慈善団体」に選ばれる
2009年 スウェーデンにウォーターエイドを設立
2013年 ウォーターエイドジャパン設立

INDEX

本期の成果	01-02
ウォーターエイドの活動国	03-04
マダガスカル	05-06
東ティモール	07-08
ネパール	09-10
リベリア	11-12
日本の活動	13-14
ウォーターエイドの活動	15-16
スポンサー 財務 役員	17-18

ウォーターエイドは、2030年までにすべての人が、すべての地域で、安全で清潔な水、トイレ、衛生環境を手に入れることを目指して、活動しています。

6億5千万人

安全な水を利用できない人の数。

ウォーターエイドの活動国

1,400人

世界で1日に下痢で命を落とす子供たちの数。
不衛生な水や衛生設備が整っていないことが原因です。

23億人

十分な衛生設備のない環境で暮らしている人の数。世界人口の約3分の1にあたります。





村全体で変える 女の子の未来

水くみで失われた女の子たちの時間を取り戻す



マダガスカル

2014年度マダガスカルでは…



102,872人

が安全な水を…



78,089人

が衛生設備を…



利用可能になりました！

- 約4,000人の子供たちが毎年、本来予防可能な下痢によって命を落としています。
- 人口2,420万人のうち、1,170万人の人々が、安全な水を使うことができません。
- 2,130万人の人々が、適切な衛生設備を使うことができません。
- 農村部では、トイレを使用することができる人は9%の人々です。

マダガスカルの現状

マダガスカルは、アフリカ大陸南東に位置するインド洋に浮かぶ島国です。固有の野生動物で知られる一方、人口の90%が1日2ドル以下で暮らしており、最貧困国の一つでもあります。農村部では、水や薪を確保すること、料理や洗濯、小さい子供たちの面倒を見ることは女の子の仕事とされています。1日に何度も長く険しい道を歩いて水くみに行かなければならず、学校を途中で辞めざるを得ない女の子が多くいます。また、苦労してくんできた水も衛生的とはいえず、人々は頻繁に下痢や腹痛に悩まされています。

ウォーターエイドの活動

ウォーターエイドは、村の人々自身が給水・衛生設備を未永く維持管理していくよう、建設作業を村の人々に担ってもらいます。アンボヒマツインジョ村でも、村の人々が積極的に建設作業に参加しました。道路状況が悪く、必要な資材を積んだ車が建設現場までたどり着けなかったとき、人々はトラックから建設現場まで、何往復も歩いて資材を運びました。今回採用した「ロタ・スラッジ」という掘削手法は、大型掘削機を使わず村の人々自らが掘削することが可能な手法ですが、掘った穴が崩れるのを防ぐために常に穴を水で満たしておく必要がありました。その水を運んでくる仕事は、女性や女の子たちが交代で担い、男性たちの掘削作業を支えました。

「学校に通える」 ソロちゃんのストーリー

この村に住むソロちゃんは、6人兄弟のなかで唯一の女の子です。家族のために1日5回水くみに行かなければならず、1年前に学校をやめました。そんなソロちゃんを見てお父さんも、積極的に給水設備の建設に参加した1人です。重たい資材を運びながら笑顔で言いました。「何千マイルだって運べるよ。村に安全な水が来るためにこれが必要なんだから。」ソロちゃんが学校に通える日はもうすぐです。「普通に学校に通える日を夢見ていました。うれしくて、毎朝ポンプがちゃんと動くかどうか見に行くんです。」

変える村の未来 衛生教育が



村の水・衛生委員会のメンバーに衛生教育を実施するウォーターエイドの現地パートナー職員。このような研修を計画し、現地パートナー職員に対してトレーニングを行うのがノフィの大切な役割です。(東ティモール・リキシャ県)

WaterAid/ Tom Greenwood

07.

東ティモール

2014年度東ティモールでは…



3,491人

が安全な水を…



2,697人

が衛生設備を…



利用可能になりました!

- 人口117万人のうち、約30万人の人々が、安全な水を使うことができません。
- 約70万人の人々が安全なトイレを使うことができません。
- 手洗いは一般的な習慣ではなく、病気が広がっています。

東ティモールの現状



東ティモールは、2002年に独立した、インドネシア諸島の東に位置するティモール島東部の国です。この国のインフラは、独立前の騒乱時に甚大な被害を受けました。一部の公共サービスには大幅な改善が見られる一方、ウォーターエイドが活動するリキシャ県とマヌファヒ県など農村部における水・衛生へのアクセスはあまり改善されておらず、農村部に住む40%の人々が安全な水を、70%の人々がトイレを使うことができません。水と衛生に起因する下痢は、東ティモールの子供たちが命を落とす原因の5分の1を占めています。

ウォーターエイドの活動



ウォーターエイドは2005年に活動を開始、現在は4つの現地パートナーとともに水・衛生プロジェクトを実施しています。給水設備やトイレの建設といったハード面の支援だけではなく、正しい手の洗い方やトイレの使い方などを伝える衛生教育にも注力しています。衛生習慣が根付いていない地域では、設備が整えられたとしても下痢などの病気はすぐに広まってしまうためです。衛生習慣の改善は、長い年月の間に根付いた習慣を変えてもらわなければならず、取り組みの難しい問題ですが、ウォーターエイドは、歌や人形劇、イラストを取り入れながら人々に伝える工夫をしています。

「私の仕事」ノフィのストーリー



WaterAid/ Tom Greenwood

ウォーターエイドの衛生担当ノフィは、日々、人々の健康のため、衛生習慣を変えるために、コミュニティや現地パートナーに対して衛生習慣の大切さを教えています。保健省と連携しながら、現地パートナーとコミュニティヘルスワーカーとともに衛生習慣を促進するためのトレーニングを設計するのもノフィの仕事です。ノフィは話します。「病気を減らすために人々の衛生習慣を変えることを目指し、毎日手を洗うこと、特にトイレを使った後と食事前に必ず手洗いをすることを教えています。病気にからなくななければ子供たちは毎日学校に通って教育を受けることができます。私はこの仕事が大好きです。」

08.



誰も取り残さない

社会で最も排除されがちな人々に水・衛生を届ける

WaterAid / Mani Karmacharya

ネパール

2014年度ネパールでは…



44,017人

が安全な水を…



108,988人

が衛生設備を…



利用可能になりました！

- 人口2,800万人のうち227万人の人々が、安全な水を使うことができません。
- 1,535万人の人々が、適切な衛生設備を使うことができません。
- 手洗いは一般的な習慣ではなく、37%の人々だけが手洗いをし、12%の人々だけが石けんを使います。



水・衛生利用者委員会の副代表と給水設備管理人を務めるサパニ・ライさん。自分たちの力で設備を維持管理していくよう、村の人々と一緒にトレーニングを受けています。(ネパール・アンキビュイ村)

WaterAid / Mani Karmacharya

ネパールの現状



ネパールの山岳地帯は、アクセスが困難であることから基礎的なサービスの普及があまり進んでいません。そのことが、人々が貧困から抜け出することを難しくする要因となっています。また、カーストやジェンダー、障害などによる社会的排除によって、最も支援を必要としている人々が支援を受けることがさらに困難になっています。ウォーターエイドが活動するマチャポカリ村とアンキビュイ村もそのような山岳地帯にある村です。この2村はサンクワサバ郡のなかでも山奥にあり、水・衛生の普及率が最も低い地域の1つです。世帯に安全で適切なトイレがある割合は、マチャポカリ村で4%、アンキビュイ村は8%です。

ウォーターエイドの活動



ウォーターエイドは、障害者や特定のカーストなど社会で排除されがちな人々のニーズが最も大きいという認識に立ち、こうした人々に配慮して活動しています。ネパールのこの2村では、給水設備の建設とトイレの設置を監督する役割を担う水・衛生利用者委員会の立ち上げを支援、委員会のメンバーを対象に、ジェンダーと社会的包摶(ソーシャルインクルージョン)について正しい認識を促すための研修を実施しました。その結果、村のなかで最も排除されがちな人々も、給水設備やトイレの設置場所など村の水・衛生に関する意思決定の場に参加し、意見を出すことが可能になりました。

給水設備管理人 サパニさんのストーリー



設備の建設や維持管理の中心メンバーになることによって、自信を得て、村の発展に関わっていく女性が多くいます。サパニ・ライさんもその1人です。サパニさんは、「水・衛生利用者委員会の副代表」であり、設備の維持管理作業を実際に担う「給水設備管理人」も務めています。「3日間の配管トレーニングを受けて、パイプの切り方や溝の作り方、道具や部品の名前を覚えました。こんな仕事を覚えられるはずがないと思っていましたが、徐々に1人でできるようになって自信がつきました。今は、給水設備の設置作業がほとんど終わったところです。水が蛇口から流れ始めるとき、それが私の人生に変化が訪れるときです。」

水と衛生が変える 医療サービス

エボラ出血熱の蔓延を阻止するためには



Aubrey Wade/WaterAid/Panos

リベリア

2014年度リベリアでは…



13,795人

が安全な水を…



11,042人

が衛生設備を…



利用可能になりました！

- 人口450万人のうち、100万の人々が、安全な水を使うことができません。
- 370万の人々が、適切な衛生設備を使うことができません。
- 1万人を超える人々がエボラ出血熱に感染し、4,800人以上が命を落としました。*

リベリアの現状



2003年に14年間続いた内戦が終結し、ウォーターエイドがリベリアと隣国シエラレオネで活動を再開したのは2009年でした。当時、給水・衛生設備などのインフラは、長年の紛争により壊滅状態にありました。病院にすら安全な水とトイレがないことが、エボラの感染拡大の一因となり、この国では、エボラ危機によって4,800人を超える人々が命を落としました。* 患者は、水をボリタンクにいり、病院まで持参しなければなりませんでした。エボラウイルスの感染は血液、嘔吐物、便のような体液を媒介としますが、病院のトイレは壊れており、汚れた寝具もすぐに交換されませんでした。

*世界保健機関(WHO) <http://apps.who.int/ebola/ebola-situation-reports>
2015/8/11アクセス



WaterAid/Mohammed Ali

ウォーターエイドの活動



エボラ危機のなか、クパラー診療所も、給水設備のない診療所の1つでした。職員と患者は、毎日学校まで水をくみに行くことに多くの時間と体力を費やさなければならず、十分な診療時間をとれませんでした。ときには水入手することができず、感染のリスクのあるまま治療をしなければならないこともあります。エボラに対する緊急支援の一環として、ウォーターエイドは、クパラー診療所を含む4つの緊急治療センターの給水・衛生設備を修復。井戸水が、小型発電機で動く水中用ポンプを通じて頭上にある貯水タンクに運ばれ、診療所に水が行きわたるしくみが動き出しました。これによって、診療所は衛生的な環境になり、感染を予防しながら医療処置を行うことが可能になりました。

「質の高い医療のために」 ウィスライン・スナーさんのストーリー

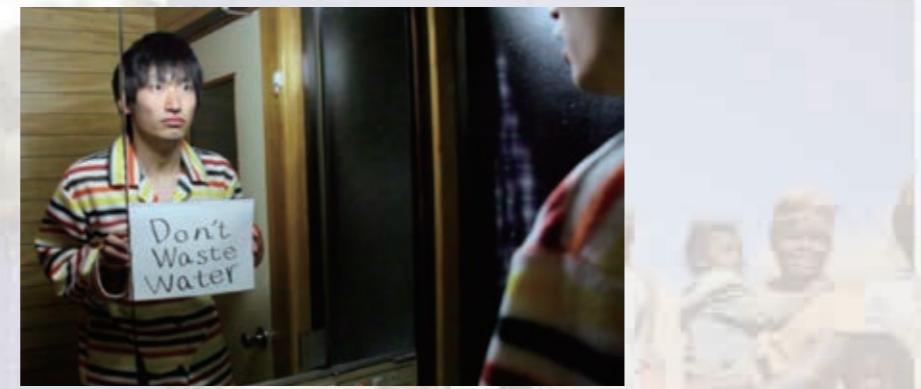


クパラー診療所の責任者であるウィスライン・スナーさんは、診療所の職員と村の人々が協力しながら本プロジェクトに取り組む姿勢に大きく感動したと言います。「うれしくて言葉も出ません。私はウォーターエイドがクパラー診療所の給水設備を修復してくれたことをとてもうれしく思っています。しっかり稼働する給水設備があることは、質の高い医療サービスを届けるために不可欠です。私たちはもう、患者さんや職員のニーズを満たすために長い距離を歩いて水をくんでくる必要はないんです。」

TOPIC
1

SHORT FILM CONTEST
「sH2Orts」

ウォーターエイド初のショートフィルムコンテストを開催。3月22日の世界水の日に向けて「水はあなたにとってどのようなものですか?」をテーマにした1分間以内の映像作品を世界中から公募し、入賞者を決定しました。携帯電話による動画撮影でも応募可能という手軽さで日本からも多くご応募いただきました。



最終選考まで残った渡邊広樹さんの作品「Sound of water」

TOPIC
4

大阪マラソンの寄付先団体に

10月26日(日)に行われた大阪マラソンは、世界で最も多くの人がチャリティに参画するマラソンをめざしており、独自の“チャリティマラソン”として実施されています。ウォーターエイドジャパンは、この大阪マラソンのオフィシャル寄付先団体の1つに選ばれ、34人のチャリティランナーの方が走ってくださいました。



TOPIC
2

認定NPO法人になりました。

2014年12月19日、所轄庁である東京都より、「認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)」としての認定を受けました。これによって、ウォーターエイドジャパンにご寄付をいただく個人・法人の皆さまは、税制優遇を受けていただくことが可能になりました。法人設立より1年10ヶ月で認定NPO法人になることができましたのも、ウォーターエイドの活動に賛同してくださった皆さまのご支援によるものと深く感謝しております。引き続きよろしくお願ひいたします。



【認定NPO法人について】
認定NPO法人制度は、NPO法人への寄付を促すことで、その活動を支援するために税制上設けられた措置として、一定の要件を満たすNPO法人に対し、所轄庁が認定を行う制度です。

TOPIC
3

**TICADに向けて
ウガンダでの会議に参加**



アフリカ開発会議(TICAD)は、日本政府がアフリカ連合、国連、世界銀行等と共に開催するアフリカの開発をテーマとする国際会議です。ウォーターエイドジャパンは、TICAD VIIに向けた政策提言に取り組む市民社会ネットワーク「市民ネットワークfor TICAD」の中心メンバーを務め、アフリカやTICADに関する関心喚起や、ステークホルダーとの関係構築などに取り組んでいます。2015年2月には、ウガンダで開催された、アフリカと日本の市民社会による戦略会議に参加しました。

TOPICS

TOPIC
5

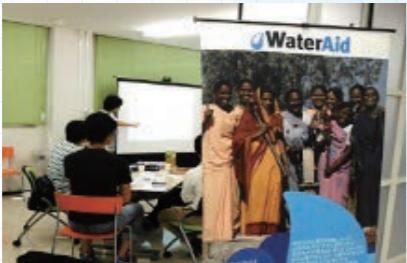
スピーカー活動

日本の子供たちに、途上国のこと、さらに途上国の水・衛生の状況について関心を持ってもらうことを目指し、出前授業を実施しています。2014年度は、小学校(インターナショナルスクール)1校、高等学校5校、大学1校を対象に出前授業を実施しました。また、水とトイレを不自由なく使える生活を送っている日本の子供たちに、途上国の水とトイレの問題に気づき、理解してもらうために、オリジナルの教材・授業案を作成するワークショップを開催しました。



ウォーターエイドの活動

Our approach



市民

問題解決のためには、より多くの人に关心を持っていただくことが大切です。イベントの実施やセミナー、学校での出前授業などで啓発活動を行っています。



援助機関・団体

多様な機関や団体と連携し、キャンペーン活動や提言、調査を行うことで、ウォーターエイドだけでは成し遂げられない成果を生み出しています。



国際社会

調査結果や市民の声をもとに国際機関や国際社会に働きかけ、水・衛生の問題により注力するよう呼びかけています。



実用的で長期的に 継続できる 解決策を目指し



現地コミュニティ

設備を長く維持していくためには、現地の人々が主体的に関わることが不可欠です。設備を使う人々が中心になって、維持管理や衛生教育を進めていくことを目指します。



現地パートナー団体

あらゆる活動はすべて、ともに活動する現地パートナーの熱心な取り組みと専門知識に支えられて成り立っています。その地域に適した持続可能で低コストな解決策を提供するためには、現地の人々の知識と技術が不可欠です。



現地政府

最も効果的なのは、その国の政府が政策を変えること。政府への働きかけを行いつつ、現地政府の活動をサポートしたり、協力してひとつのプロジェクトを行うこともあります。

ウォーターエイドジャパンを 支えてくださった皆さん

2014年度、皆さまのご支援がさまざまなかたちで実を結びました。

その一部を、このレポートでご紹介します。皆さまの温かいご支援に心から感謝いたします。

BSIグループジャパン株式会社／国際ソロップチミスト浜松／花王株式会社／
花王ハートボケット俱乐部／gooddo株式会社／株式会社良品計画／ヤフー株式会社



青木愛様

元北京オリンピックのシンクロナイズドスイミング日本代表で、現在はシンクロナイズドスイミングの指導を行う傍ら、タレント、レポーターとしてご活躍中の青木愛さんが、水とは切っても切れない関係で過ごしてきたことから、活動にご賛同いただき、ご自身のさまざまな活動を通じてご協力くださっています。



株式会社ファンケル

2009年より、毎年8月に行われるシニアゴルフトーナメント「ファンケル クラシック」会場における、ギャラリーの皆さまからの募金やプロの愛用品オークションの売上金等の一部をご寄付いただきました。



株式会社イオンフォレスト

ザ・ボディショップが期間限定で販売を行った「チャリティリップバター ドラゴンフルーツ」。商品1つにつき30円を、ウォーターエイドジャパンにご寄付いただきました。



株式会社アールオーエヌ

アメリカ・ニューヨーク生まれのエコでスタイリッシュな魔法瓶『S'wellボトル』。売り上げの一部をご寄付くださっています。



アビームコンサルティング株式会社

2013年より毎年ご寄付いただいている。社員の皆さまが、教材作成ワークショップや大阪マラソンに積極的に参加してくださっているほか、2014年には、ご支援いただいているネパール・東ティモールも訪問されました。

ウォーターエイドジャパン 会計報告

活動計算書(単位:円)

< 収入 >		< 支出 >	
受取会費	40,000	事業費	
受取寄付金	19,205,454	情報発信	5,485,676
事業収益	141,227	開発教育	2,320,492
その他収益	195,508	水・衛生事業／募金	8,372,000
合計	19,582,189	管理費	3,059,060
		合計	19,237,228

貸借対照表(単位:円)

< 資産の部 >		< 負債の部 >	
流動資産		流動負債	
・現金預金	2,795,992	・未払金	1,078,900
・前払費用	6,480	・預り金	173,665
・立替金	110,840	・未払法人税等	70,000
・仮払金	204,687	負債合計	1,322,565
固定資産			
・ソフトウェア	174,930		
・保証金	65,331		
資産合計	3,358,260		

負債及び正味財産合計 3,358,260

ウォーターエイドジャパン 役員

理事長

滝沢 智

東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻教授

理事

赤羽 真紀子

CSRアジア 日本代表

理事

池上 清子

日本大学大学院
総合社会情報研究科教授

理事

橋本 淳司

ジャーナリスト/
アクアスフィア代表

理事

高橋 郁

特定非営利活動法人
ウォーターエイドジャパン事務局長

監事

和仁 亮裕

伊藤 見富法律事務所/
Morrison & Foerster 弁護士